ブルガリアの首都ソフィアの発展と地域的特色

小林　浩二

キーワード：東ヨーロッパ，ソフィア，地域的特色，体制転換，中心地区（Central City area），内帯（Inner city），縁辺帯（Peripheral city），周辺地区(Surrounding area)

1．はじめに
2．ソフィアの発展
3．ソフィアの地域的特色
　3－1．ソフィアの地域的特色
　3－2．若干の事例
4．おわりに

1．はじめに

1990年の東ヨーロッパ諸国の体制転換後の変化のなかで，特色のひとつは大都市が著しく発展したことである（Gorzelak 1996；Wecławowicz1996; Fassmann 1997；小林 2005)。とりわけ，ワルシャワ，プラハ，ブラティスラヴァ，ブダペスト，ブカレスト，ソフィアなど首都を中心とした大都市の発展は目を見張るものがある。これらの都市が今日の姿になろうと，いったい誰が予想したろうか。大都市発展の背景には，いうまでもなく市場経済化に伴う第3次産業部門の発展があるが，海外の資本投資が大都市へ集中していること，大都市が拡大EUの発展軸の結節点に当たっていることも大きい。

コレツKorecによると，スロヴァキアの首都，ブラティスラヴァの発展は，つぎの6点に特色づけられるという（Korec 2004)。1）都市中心部における商業機能の集積，2）工業地区の活性化，3）新たな商業中心地の形成（ビジネスセンター，ショッピングセンターなどの建設)，4）住宅団地への商業施設の進入，5）高級住宅地の形成，6）都市化の外延的拡大。ブラティスラヴァのこうした変化は，東ヨーロッパの大都市に共通してみられる[1)]。東ヨーロッパにおける大都市の一連の変化は，「生産と管理の都市」から「居住環境を重視した都市づくり」への転換ともいえよう（小林　2005)。

このように，かつての東ヨーロッパ諸国の大都市は，機能的，構造的に大きく変化してきたが，その特色は都市の地域的差異が大きくなり，多様化していることである（Korec and Buček 1999; Turnock 2003; 小林　2005)。本稿では，ブルガリアの首都ソフィアをとりあげ，その発展と多様性の実態を捉えることにしたい。

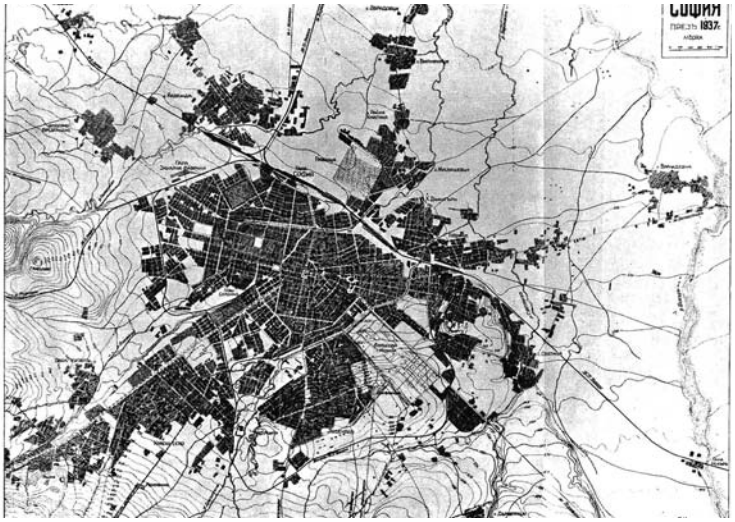
ソフィアは，ブルガリア西部，周りを山で囲まれたソフィア谷に立地している（第1図)。ビトシャ山の北麓に位置している。海抜高度は550mである。温和な大陸性気候で，最寒月1月の平均気温は2.2℃，最暖月8月のそれは30.0℃，年間平均気温は15.1℃，年降水量は650mmである（Sofia.

Google Earthより作成.

第1図　研究対象地域

http://en.wikipedia.org/wiki/Sofia)

ソフィアは，アドリア海・中央ヨーロッパを黒海・エーゲ海に結びつける結節地点となってきた。ソフィアは，セルディカ　Serdikaと呼ばれるトラキア人の集落であった。12〜14世紀にかけて交易と工業の中心地として発展，1376年にソフィアと改名（ギリシャ語で賢明という意味）された。1382年にオスマン帝国によって征服され，1878年にロシア軍によって解放されるまで，500年にわたってオスマン帝国の支配を受けた。1879年に ブルガリア公国の首都となり，1908年に独立した。第２図は1937年当時のソフィアを示した地図である。第２次世界大戦後，ブルガリアは社会主義国の首都になり，社会主義に基づく都市づくりが行われた。1990年以降，市場経済化への転換がはかられるなかで，ソフィアは第３次産業の伸張を梃に急速な発展を遂げてきた（Georg Westermann Verlag 1970；Ministry of Regional Development and Public Works 2005)。

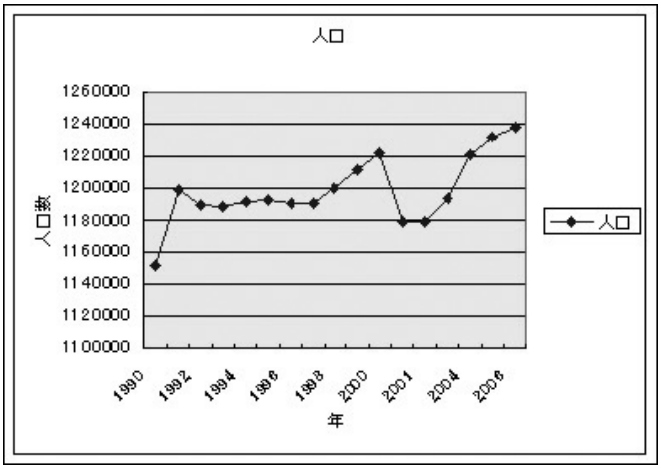


第２図　ソフィア（1937年）

研究対象地域は，首都ソフィア（Sofia Capital）（以下ソフィア）である。ブルガリアは28の地区（district）からなるが，ソフィアはそのうちのひとつである。面積1,342.0k㎡，人口数は123.8万人（2006年）で，人口密度は922.5人/k㎡である（National Statistical Institute・Regional Statistical Office of Sofia・Municipality of Sofia 2004)。

２．ソフィアの発展

第３図は，1990年以降のソフィアの人口変化をみたものである。1990年以降，ソフィアは複雑な人口動態を示しているが，全体的にみると人口は増加している。1990年から1991年にかけての人口の急増は，体制転換を契機に人口がソフィアに流れ込んだことによるものであり，2000年から2001年にかけての急減は，人口流出によるものと思われる。1991年以降，自然増減率は一貫してマイナスを示していることから，ソフィアの人口増加は人口流入に起因していることになる。なお，ソフィア統計局は，2007年のソフィアの人口数を160〜180万人と見積もっており，統計値の1.3〜1.5倍となっている。これは，ソフィアに転居して来る人の多くが転居の手続きをとっていないためである[2)]。



資料：Sofia in Figure 2003等より作成.

第３図　ソフィアの人口

第１表は 産業部門別就業人口を示したものである。1998年から2002年までの間に就業人口は49.8万人から53.9万人へと増加した。産業部門別にその割合をみると，1998年においては，第１次産業2.7％，第２次産業25.9％，第３次産業71.2％だったのが，2002年にはそれぞれ2.4％，23.1％，74.4％となった。第３次産業の就業人口の割合が圧倒的に高く，しかも増加していることが特色である。とり

第１表　ソフィアにおける産業別就業人口の変化

産業分類	1998年			2002年		
農業，狩猟，漁業，林業	13,452	2.7%	2.7%	12,901	2.4%	2.4%
採鉱・採石業	518	0.1%		0	0.0%	
製造業	85,475	17.2%		89,227	16.5%	
電気，ガス，水供給	7,193	1.4%		0	0.0%	
建設業	35,742	7.2%	25.9%	35,686	6.6%	23.1%
交易，自動車・家財などの修理	84,660	17.0%		106,657	19.8%	
ホテル，レストラン	10,415	2.1%		17,931	3.3%	
輸送，貯蔵，通信	61,363	12.3%		69,715	12.9%	
金融，仲介業	16,088	3.2%		16,618	3.1%	
不動産，ビジネス業	58,368	11.7%		72,363	13.4%	
公務，社会保障	21,540	4.3%		20,907	3.9%	
教育	37,669	7.5%		35,293	6.5%	
保健，福祉事業	35,805	7.2%		30,920	5.7%	
その他の社会・個人的サービス活動	29,256	5.9%	71.2%	31,144	5.8%	74.4%
計	497,544			539,362		

わけ，商業，自動車・家財などの修理及び不動産，ビジネス業の占める割合は高く，増加も著しい。

こうしたなかで，ソフィアは地域的にも大きく変化してきた。ソフィアは，”同心円的に発展を遂げてきたコンパクトな都市”と特色づけることができる (Sofia Municipality 2004)。ソフィア及びその周辺部のマスタープランは，ソフィアを中心地区（Central City area)，内帯（Inner city)，縁辺帯（Peripheral city)，周辺地区 (Surrounding area) の４つの地区に区分している (Sofia Municipality 2004)。中心地区は工業化以前に成立した地区で，ソフィア及び国家の行政的，代表的機能を有する。内帯は第２次世界大戦までの市街化地区，縁辺帯は社会主義時代に市街地化された地区，そして，周辺地区はコンパクトな都市を越えた地帯で，散在した集落から構成される[3)]。

以下，各地区ごとに，1989年以降，それぞれの地区がどのように変化してきたかを検討してみよう。中心地区は，ソフィアならびにブルガリアの行政・経済・文化機能だけでなく，住宅機能としても重要な役割を果たしてきた。この地区は５～６階建ての建物が多く，住宅密度はソフィアのなかで最も高い。1989年以降，この地区では商業化，すなわち，オフィス，小売店，レストランなどの建設が急ピッチで進み，その結果，CBDの発展が顕著になってきた。それに押しやられる形で，住宅は減少してきた。この地区の最大の問題は，新改築が進行しないことならびに駐車場のスペースを確保するのが困難なことである。前者の理由として，1989年以降のトランスフォーメーション期初期には店舗を開業するなどの理由で建物の一部の改装・改築が盛んに行われたが，そのことが，建物全体の取り壊しを困難にしていることがあげられる（写真１)。

内帯は，中心地区の外側からほぼ古い環状鉄道に至るまでの地区を含む。この地区の北部と西部には大量の難民が流入し，無秩序な市街地が形成されたのに対して，南部と東部－たとえば，ロゼネツLozenets，イヴァン・ヴァツォフ Ivan Vazof，イズトク Iztok，ヤヴォロフ Yavorov，ゲオ・ミレフ Geo Millevなど－において，高級住宅地が形成された。また，この地区には工業地区も形成され，広範に存在していた。たとえば，ヴィトシャ Vitosha，スレデツSledets，ソフィア中央駅周辺などである。社会主義時代になって，この地区には社会主義の都市を象徴する”住宅集落”が建設さ

写真１ソフィア中心地区（スレデツ）の住宅景観
（2007年８月撮影）
中心地区では、改修された住宅と改修されていない住宅との対照が著しい。

れた（ヤボロフ，ゲオ・ミレフなど）。1989年以降，住宅建設が顕著になり，従来の景観が大きく変化するところが出現してきた。たとえば，ロゼネツでは，住宅の建設ラッシュにより，従来の良好な住宅環境は失われつつある。この地帯の工業地区の変化も大きい。工場の廃業や周辺への移転が進んでおり，そのあとにショッピングセンター，ビジネスなどの施設が進入している。特に立地条件のよい主要道路沿いには新たなビジネスセンターが形成されつつある。

写真２　ムラドストの住宅（2007年８月撮影）

縁辺帯は，社会主義時代になって開発されたところで，とりわけ1970，1980年代に建設された”住宅集落”に特徴づけられる。社会主義時代，ソフィアでは４つに分けて住宅集落の建設が行われた。１）人口3,000〜5,000人規模で託児所・幼稚園を備えた住宅集落，２）人口1.5万〜２万人規模で小学校を備えた住宅集落，３）人口４万〜５万人規模で総合病院，映画館等を備えた住宅集落，４）人口10万〜20万人規模で総合病院，映画館等を備えた住宅集落（Sofia Manicipality 2004）。住宅集落の建設は，都市住民に公共サービス及び快適な居住環境を提供するためだったが，この目標は十分達成されたとはいえない。初期に建設された住宅集落では，緑地，公共サービス，商業機能などが併設され，比較的良好な居住環境が構築されたが，1980年代に建設された住宅集落－たとえば，レヴスキLevski，オベルヤObelya，リューリンLjulin，ムラドストMladosti，ドゥルジバ Družhbaなど－においては，公共サービス，緑地，住宅集落内部の輸送インフラが十分でなかった（写真２）。

写真３　ロゼンの住宅景観（2005年８月撮影）
ロゼンはヴィトシャ山麓に位置する集落である。

1989年以降民有化（レスティチューション）が断行されるなかで，国は住宅集落への投資から手を引くようになった。国が管理していた土地は個人有になり，一部を除いて，行政，文化，スポーツ，レクリエーションなどの企画や小売，緑地，駐車場，ガレージなどの管理は行われなくなった。こうしたなかで，民間資本の住宅建設が急激に進むとともに，商業機能，特に外国資本のチェーン店－メトロMetro，ビラBilla，シェルShell，マクドナルドMcDonaldsなど－が進出してきた。また，社会主義時代，縁辺帯には工業地区も形成されたが（リューリン，オリオンOrion，イズトクIztok，イスカーIskarなど），これらの工業地区は閉鎖されるか，民有化されて周辺部へ移転しているものが多い。その跡地の一部は，小売・卸売り施設に変化している。

写真４　環状線に沿って進出した工場
（2007年８月撮影）

周辺地区は，縁辺帯の外側の地帯で，散在した集落から構成されている。いわゆるコンパクトシティーの外側の地帯である。この地区に位置する集落は，たとえば，ソフィア南部に位置するゴルナ・バンヤGorna Banya，クンヤジェヴォKnyazhevo，

ボヤナBoyana，ドラガレヴチDragalevtsi，ゴルブルヤネGorubljane ，ロゼンLozen（写真３），西部に位置するスホドルSuhodol，フィリポヴチPhilipovtsi，北部のイリヤンチIliyantsi，ベンコヴスキBenkovski，ブラジデブナBrazhdebna，ノヴィ・イスカーNovi Iskar，クレモコヴチKremokovtsiなどである。この地区は，社会主義時代，住宅機能とともに工業・倉庫機能を有していた。場所によっては農業も行われていた。

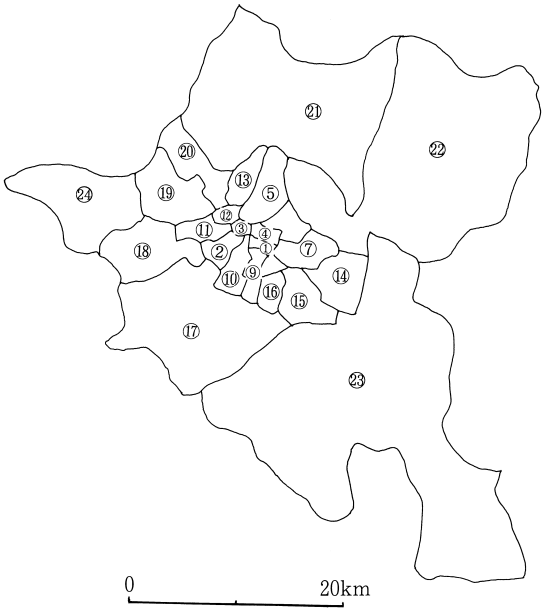
1989年以降，周辺地区への都市機能の進出はめざましい。特に南部の環状線に沿って，さまざまなオフィス，商店，倉庫，ガソリンスタンドなどが建設されるようになった（写真４）。また，ヴトシャ山麓にある集落には，高級住宅地が形成されるようになった。さらに，北部を中心に工場も急速に進出しつつある。集落機能の変化も著しく，郊外住宅地の機能を強めている集落が多い。

３．ソフィアの地域的特色

３－１．ソフィアの地域的特色

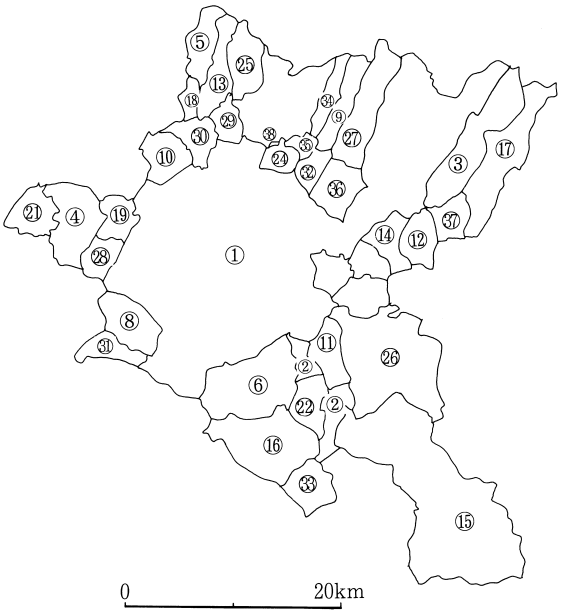
このように，ソフィアは急激な変貌を遂げてきたが，どのような地域的特色を有しているのであろうか。ソフィアは24の地区（district）から（第４－ａ図），また，38の 集落（settlement）から構成されている（第４－ｂ図）。ここでは，ソフィアの地域的特色をみるために，いくつかの指標について地区ならびに集落別に検討してみよう。

第５図は，1992年～2001年，第６図は，2001年～2006年の人口増減率をそれぞれ示したものである。まず前者からみよう。1992年から2001年までの間にソフィアの人口は119.0万人から117.1万人に減少したが（人口減少率1.6%），地域的にみると，スレデツSredets（－24.3%），オボリシュテOborishte（－17.8%）などの中心部とノヴィ・イスカーNovi Iskar（－9.3%），クレミコヴチKremikovtsi（－4.7%）などの北部を中心に人口減少が著しく，



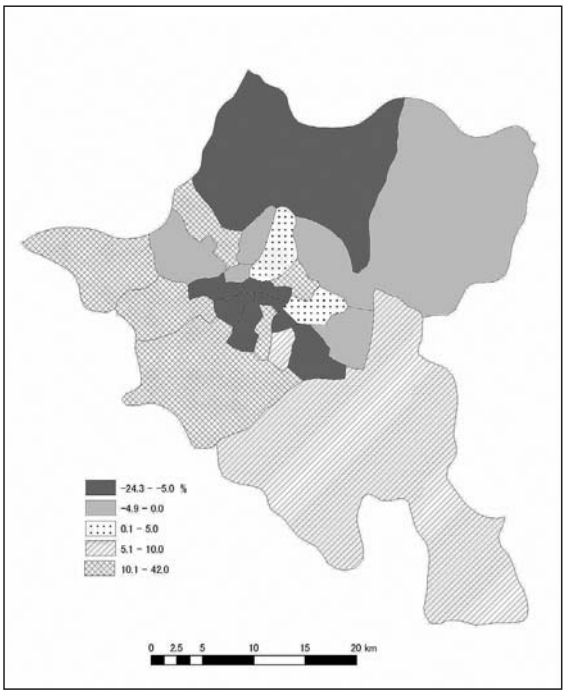
①Sredets
②Krasno selo
③Vazrazhdane
④Oborishte
⑤Serdika
⑥Poduyane
⑦Slatina
⑧Izgrev
⑨Lozenets
⑩Triaditsa
⑪Krasna polyana
⑫Ilinden
⑬Nadezhda
⑭Iskar
⑮Mladost
⑯Studentski
⑰Vitosha
⑱Ovcha kupel
⑲Lyulin
⑳Vrabnitsa
㉑Novi Iskar
㉒Kremikovtsi
㉓Pancharevo
㉔Bankya

第４-a図　ソフィアの行政区分（地区）

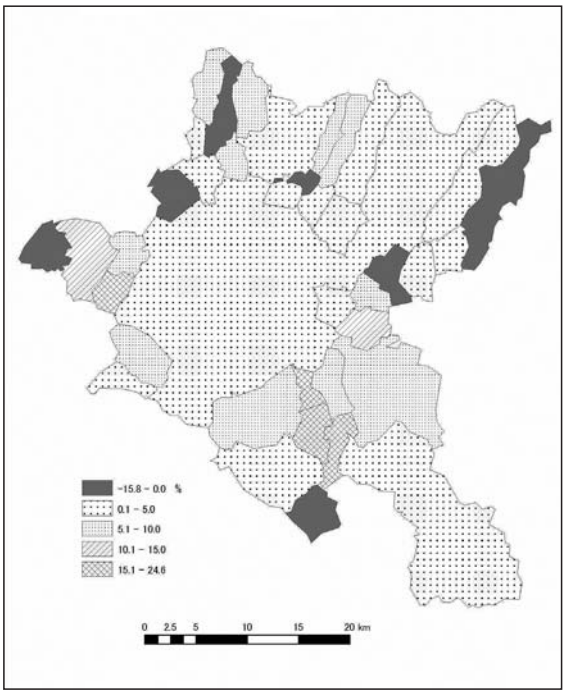


①Sofia City
②Novi Iskar
③Buhovo
④Bankya
⑤Balsha
⑥Bistritsa
⑦Busmantsi
⑧Vladaya
⑨Vojnegovt
⑩Voluyak
⑪Geman
⑫Gorni Bogrov
⑬Dobroslavtsi
⑭Dolni Bogrov
⑮Dolni Pasarel
⑯Zheleznitsa
⑰Zelyava
⑱Zhiten
⑲Ivanyane
⑳Kazichene
㉑Klisura
㉒Kokalyane
㉓Krivina
㉔Kubratovo
㉕Katina
㉖Lozen
㉗Lokorsko
㉘Malo Buchino
㉙Mirovyane
㉚Mramor
㉛Marchaeve
㉜Negovan
㉝Pancharevo
㉞Plana
㉟Podogumer
㊱Svetovrachene
㊲Chepintsi
㊳Yana

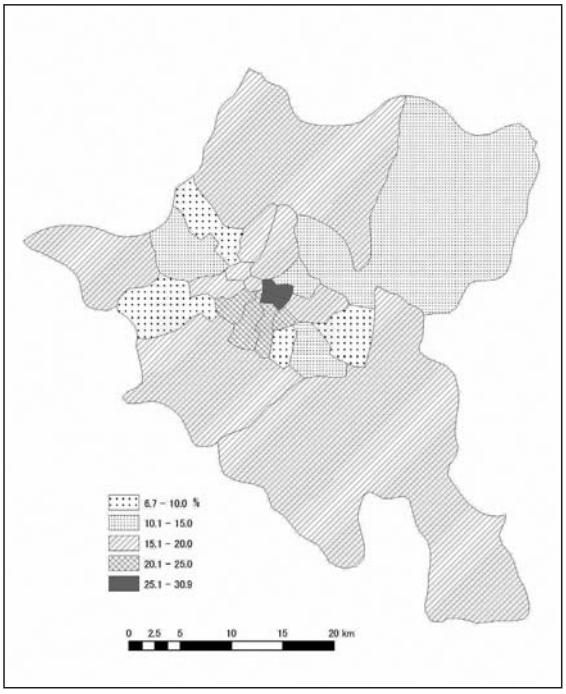
第４-b図　ソフィアの行政区分（集落）



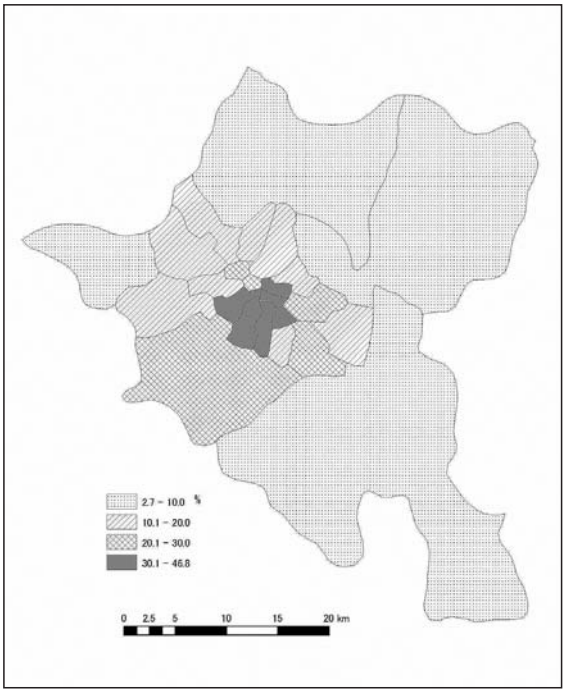
第５図　ソフィアの人口増減率（1992年～2001年）



第６図　ソフィアの人口増減率（2001年～2006年）



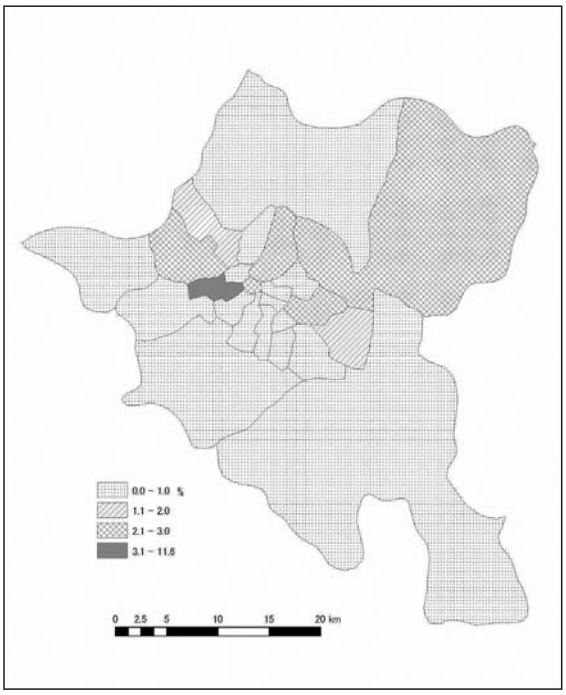
第７図　ソフィアの高齢化率（2001年）



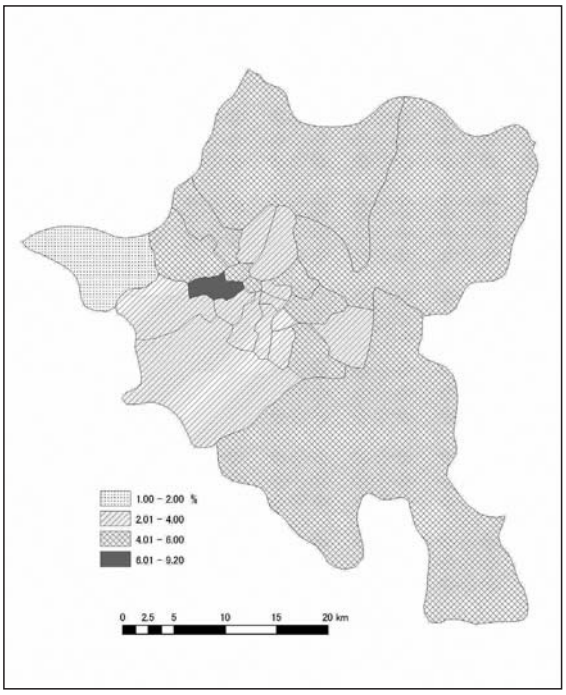
第８図　ソフィアの高学歴率（2001年）

オブチャ・クペルObcha Kupel（28.0%），バンクヤBankya（13.0%），ヴィトシャVitosha（11.6%）など南部から西部にかけて人口増加が顕著となっている。つぎに後者であるが，2006年にはソフィアの人口は123.8万人になり，2001年から2006年にかけては人口増加に転じた（人口増加率は5.0%）。人口増加地区は広範に広がっており，人口減少は縁辺部を中心に散在的にみられる。

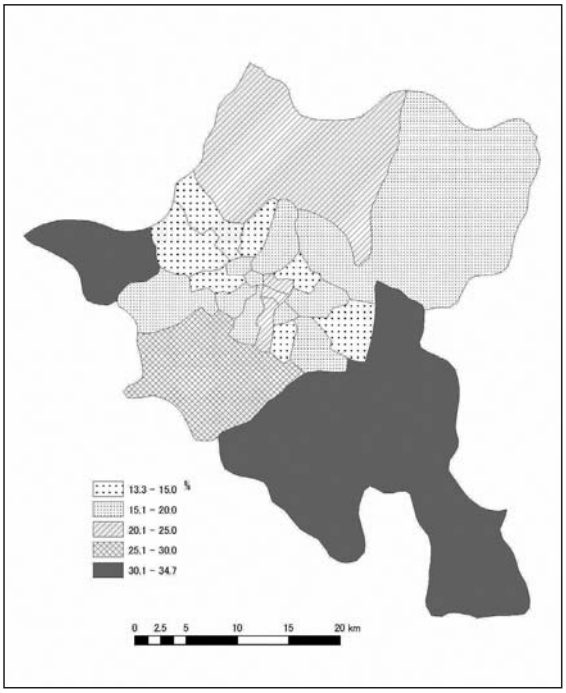
第７図は，2001年の高齢化率をみたものである。一般的にみると，高齢化率は中心部で高く（たとえば，スレデツ30.9%，オボリシュテ27.4%），周辺部で低くなっている。ただし，高齢化率の最も低い地区は，シュツデンツキStudentski（6.7%），ヴラブニツァVrabnitsa（8.8%），イスカーIskar（9.5%）など中心部に比較的近い地区に分布している。これらは都市化が著しい地区である。高学歴



第９図　ソフィアのロマ人の割合（2001年）



第10図　ソフィアの失業率（2001年）

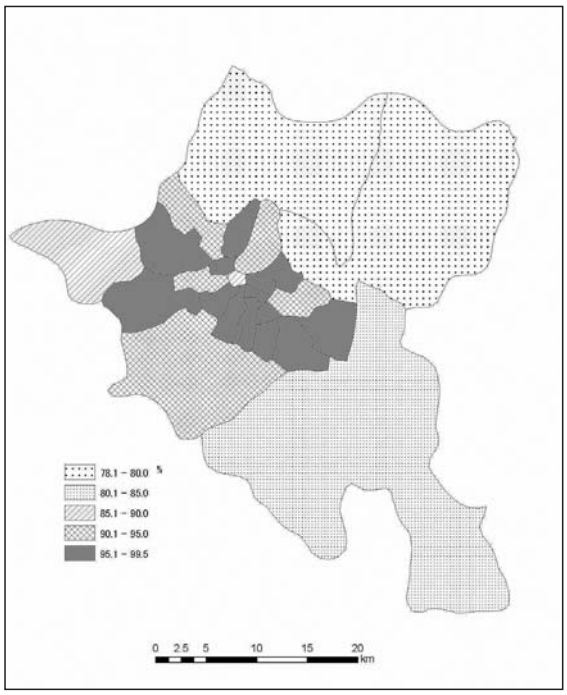


第11図　ソフィアの１人当りの居住床面積（2001年）

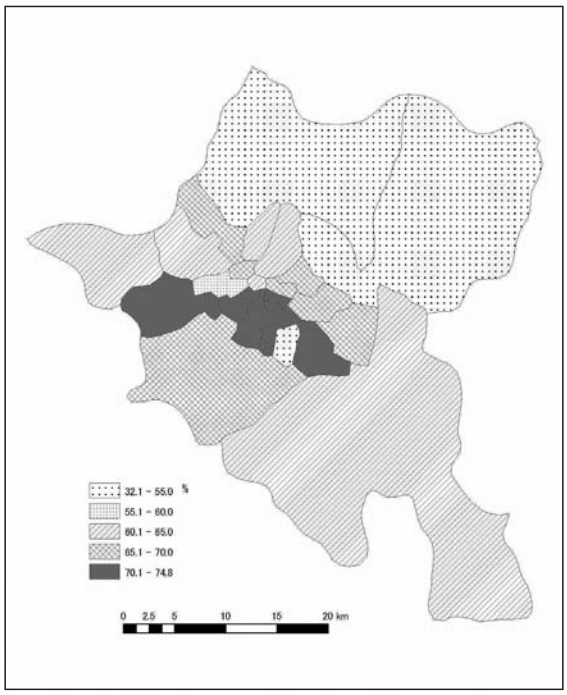
率[4]も，高齢化率とほぼ同じような分布を示しているが，中心部と周辺部の対照がより明瞭である（第８図）。高学歴率の高い地区は，スレデツ（46.8%），イズグレフIzgrev（39.5%），ロゼネツ（35.2%），トリエディツァTrieditsa（33.7%），クラスノ・セロ Krasno selo（32.5%）など中心部であり，逆に低い地区は，周辺部のクレミコヴチ（2.7%），ノヴィ・イスカー（3.9%），パンチャレヴォ（5.8%），バンキヤ（9.6%）である。

ソフィアの民族集団はどのようになっているだろうか。2001年の統計によると（National Statistical Institute・Regional Statistical Office of Sofia・Municipality of Sofia 2004），ブルガリア人が96.0%と圧倒的に多く，以下，ロマ人1.5%，トルコ人0.5%となっている。ソフィアのロマ人の分布をみたのが第９図である。クラスナ・ポルヤナKrasna polyanaが11.6%と飛び抜けて高く，ロマ人はこの地区に集中していることがわかる。ロマ人の比率が２%以上の地区は，リューリン（2.9%），クレミコヴチ（2.8%），セルディカ（2.4%），ヴァズラジダネVazrazhdane（2.4%），スラティナ（2.2%）である。

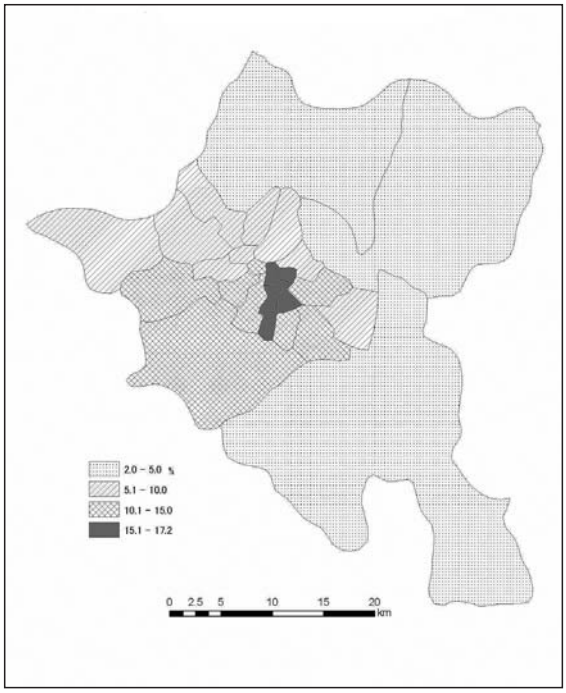
第10図は，2001年の失業率を示したものである。失業率は，クラスナ・ポルヤナで飛び抜けて高くなっている（9.2%）。地域的にみると，失業率は中心から南西部にかけての地域で低くなっており，北東部から南東部で高くなっている。失業率の低い地区は，バンクヤ（1.0%），オボリシュテ（2.8%），シュツデンツキStudentski（2.9%），逆に高い地区は，クラスナ・ポルヤナのほか，クレミコヴチ（5.8%），リューリン（5.4%），パンチャレボ（5.3%），ヴァズラジダネ（5.3%）である。



第12図　ソフィアの風呂を有する住宅の割合（2001年）



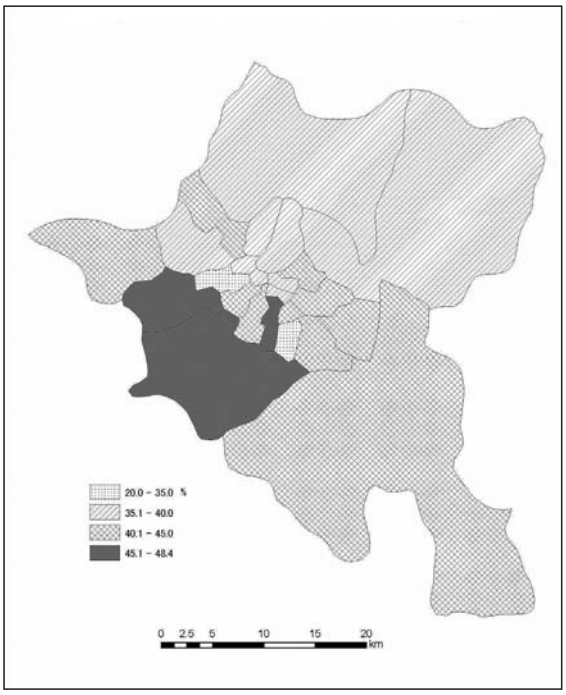
第13図　ソフィアの自動洗濯機を有する住宅の割合（2001年）



第14図　ソフィアのPCを有する住宅の割合（2001年）

第11図は，１人当たりの居住床面積を示したものである。中心部で小さく，周辺部で大きいという傾向がみられるものの，かなり複雑な分布を示している。たとえば，中心部に位置していても，シュツデンツキ，クラスナ・ポルヤナではそれぞれ13.8㎡，14.1㎡であるのに対して，スレデツ22.4㎡，ロゼネツ23.8㎡となっており，かなりの差異がある。また，周辺部に位置するバンキヤが34.7㎡，パンチャレヴォが32.6㎡であるのに対して，クレミコヴチは17.8㎡，ノヴィ・イスカーは23.1㎡といった具合である。バスルーム（風呂）を有する住宅（dwelling）の割合をみたのが第12図である。バスルーム（風呂）を有する家屋の割合は中心部で高く，90%以上となっているのに対して，周辺部では90%未満となっている。とりわけ北部のクレミコヴチでは78.1%，ノヴィ・イスカーは78.2%と低い。第10図と同じような地域的特徴を示すのが自動洗濯機を保有する住宅の割合である（第13図）。高い割合を示す地区は，ロゼネツ（74.8%），イズグレフIzgrev（73.7%），トリアディツァTriaditsa（71.8%），スレデツ（71.0%），ムラドスト（71.0%），クラスノ・セロ（71.0%），オブチャクペルOvcha kupel（70.4%），オボリシュテ（70.0%）であり，反対に低い割合の地区は，シュツデンスキ（32.1%），クレミコヴチ（46.1%），ノヴィ・イスカー（51.0%）である。なお，シュツデンスキが32.1%と際だって低い値を示しているが，これは，この地区に大学が集中しており，学生が多いことによるものと思われる。

第14図は，PC（パソコン）を有する住宅の割合を示したものである。この図は，中心部から南西部にかけての地域で高く，北部から南東部で低くなっており，失業率を示すパターンと対照的である。



第15図　ソフィアの自動車を有する住宅の割合（2001年）

高い割合を示す地区は，ロゼネツ（17.2%），スレデツ（16.0%），イズグレフ（15.9%），オボリシュテ（15.5%）であり，低い地区はクレミコヴチ（2.0%），ノヴィ・イスカー（2.2%），パンチャレヴォ（4.8%）である。車（乗用車，ミニバス，ジープなど）を有する住宅の割合もPCを有する住宅の割合と類似したパターンを示す（第15図）。すなわち，中心から南西部にかけての地域で高く，北部で高くなっている。高い割合を示す地区は，ヴィトシャ（44.4%），オブチャクペル（46.9%）であり，逆に低い地区はシュツデンスキ（20.0%），クラスナ・ポルヤナ（34.1%），クレミコヴチ（36.0%），ノヴィ・イスカー（38.2%）である。

3－2．若干の事例

このように，ソフィアは多様な様相を呈しているが，ここではいくつかの地区をとりあげその実態を概観してみることにしよう。ここで取りあげる地区は，ロゼネツ，ポドゥヤネ，クラスナ・ポルヤナ，シュツデンスキ，リューリン，ヴィトシャ，ヴラブニツァの7地区である（第2表）。

ロゼネツは，ソフィアの高級住宅地のひとつを形成している（写真5，6）。既述したように，1989年以降，アパート・マンションなどの建設が進み（1992年～2001年の人口増加率16.6%，その後も増加），豊富な街路樹や公園に囲まれた4～5階建ての住宅に特色づけられた高級住宅地の景観は変化しつつある。しかしこの地区が高級住宅地であることは，高学歴率が35.2%，1人当たりの居住床面積が23.8㎡，風呂を有する住宅の割合が98.3%，自動洗濯機を有する住宅の割合が74.8%，車を有する住宅の割合が45.8%と，いずれもソフィアの平均をはるかに超えていることに端的にあらわれ

第2表　ソフィア，若干の地区の人口，経済，生活指標

地区	人口						経済	生活				
	2001年の人口(10,000人)	人口変化(%)(1992～2001年)	人口変化(%)(2001～2006年)	高齢化率(%)	高学歴率(%)	ロマ人の割合(%)	失業率(%)	1人当りの居住床面積(㎡)	風呂を有する住宅の割合(%)	自動洗濯機を有する住宅の割合(%)	PCを有する住宅の割合(%)	車を有する住宅の割合(%)
ロゼネツ Lozenets	4.5	16.6		22.1	35.2	0.0	3.3	23.8	98.3	74.8	17.2	45.8
ポドゥヤネ Poduyane	7.5	42.0		12.3	15.1	1.0	4.5	14.7	96.3	66.8	7.5	41.0
クラスナ・ポルヤナ Klasna polyana	5.4	-6.4	5.0	15.8	18.4	11.6	9.2	14.1	90.2	59.1	7.8	34.1
スツデンスキ Studenski	5.0	5.2		6.7	17.0	0	2.9	13.8	98.5	32.1	12.8	20.0
リューリン Lyulin	10.9	-4.5		10.5	16.0	2.9	5.4	14.2	97.8	63.8	7.3	38.9
ブトシャ Vitosha	4.3	11.6	注1)	16.6	20.2	0.9	3.5	26.3	91.7	69.9	11.3	48.3
ヴラブニツァ Vrabnitsa	4.7	18.8	注2)	8.8	10.9	1.8	4.6	14.7	91.5	66.2	6.6	42.7
ソフィアの平均		-1.6	5.0	15.4	21.8	1.5	4.5	17.5	95.1	64.9	10.4	40.0

注1）Vitoshaは、ソフィアの一部、Vladaya,Marchaevoから構成される。この時期の人口増減率は，Vladayaが5.8%，Marchaevogaが3.5%である。
注2）Vrabnitsaは，ソフィアの1部，Volyak，Mramorから構成される。この時期の人口増減率は，Volyakが－0.1%，Mramorが3.5%である。　資料：Sofia in Figure 2003等より作成.

写真５　ロゼネツの住宅景観（2007年８月撮影）

写真６　ロゼネツの住宅景観（2007年８月撮影）

写真７　クラスナ・ポルヤナのロマ人（2007年８月撮影）
ロマ人は、この地区に集中して居住している。左手がロマ人，右手が警察官。警察官は常時見張っているのだという。

写真８　クラスナ・ポルヤナのロマ人
（2007年８月撮影）

ている。高齢化率が22.1％と高いこともこの地区の特色である。2001年の人口は4.5万人であった。

ポドゥヤネは，古くから市街地化されていたが，1989年以降東部に新たに市街地が広がり，新旧２つの区域が併存するようになった。人口の変化をみると，1992年～2001年の人口増加率42.0％ときわめて高く，その後も増加は続いている。高齢化率が12.3％，高学歴率15.1％，PCを有する住宅の割合7.5％とソフィアの平均より低く，また，１人当たりの居住床面積も14.7㎡とソフィアの平均より小さい。その一方で，風呂を有する住宅の割合は96.3％，自動洗濯機を有する住宅の割合は66.8％，車を許す住宅の割合は41.0％とソフィアの平均より若干高くなっている。2001年の人口は7.5万人であった。

クラスナ・ポルヤナ は，ロマ人が集中的に居住していることに特色づけられる（ロマ人の割合は11.6％）（写真７，８）。１人当たりの居住床面積は14.1㎡とソフィアの平均より低く，高学歴率は18.4％，失業率は9.2％，風呂を有する住宅の割合は90.2％，自動洗濯機を有する住宅の割合は59.1％，PCを有する住宅の割合は7.8％，車を有する住宅の割合は34.1％と，いずれもソフィア平均よりはるかに低い。この地区のロマ人居住地区に足を踏み入れたことがないソフィア市民は多いという[5)]。人口は1992～2001年に減少したが，その後増加傾向を示している。2001年の人口は5.4万人であった。

シュツデンスキは，工業大学，経済大学，スポーツ訓練所が立地しており，いわゆる学生地区である。近年，南部に向かって都市化の進展が急速に進展している。1992年～2001年の人口増加率は5.2％であり，その後も増加している。この地区に学生が多いことは，１人当たりの居住床面積が13.8㎡と小さく，また，高齢化率が6.7％，自動洗濯機を有する住宅の割合が32.1％，車を有する住宅の割合が20.0％とソフィアの平均より低いこと，その一方で，PCを有する住宅の割合が12.8％とソフィアの平均より高いことに端的にあらわれている。2001年の人口は5.0万人であった。

写真９　リューリンの住宅集落（2007年８月撮影）

写真10　リューリンに進出した商業施設（2007年８月撮影）

写真11　ヴィトシャの住宅景観（2007年８月撮影）

写真12　ヴィトシャに進出した高級住宅（2007年８月撮影）
戸建て住宅を中心とした高級住宅の進出が著しい。

リューリンは，社会主義時代の1980年代になって建設された”住宅集落”である（写真９）。2000年にこの地区と中心のセルディカ駅を結ぶ地下鉄が建設された。1992～2001年に人口はやはり減少したが（人口増減率は－4.5%），その後増加に転じている。地下鉄駅周辺や幹線道路に沿って，オフィスや商業施設が増加してきた（写真10）。しかし，この地区は，社会主義時代の”住宅集落”の特性を色濃く残している。すなわち，高齢化率が10.5%，PCを有する住宅の割合が7.3%とソフィアの平均より低く，１人当たりの居住床面積も14.2㎡でソフィアの平均より小さい。ロマ人の割合が2.9%とクラスナ・ポルヤネについで高いことも，この地区の特色である。2001年の人口は10.9万人であった。

ヴィトシャ山麓に位置するヴィトシャは，居住環境が良好で社会主義時代から高級住宅地となってきた（写真11）。1989年以降，人口増加が著しく，1992年～2001年の人口増加率は11.6%であり，その後も増加している。特に，広い敷地面積を有する豪壮な戸建て住宅の建設が著しい（写真12）。この地区が高級住宅地であることは，失業率が3.5%とソフィアの平均より低く，その一方で，PCを有する住宅の割合が11.3%，車を有する住宅の割合が48.3%とソフィアの平均より高く，しかも１人当たりの居住床面積が26.3㎡もソフィアの平均より大きいことにあらわれている。2002年の人口は，4.3万人であった。

ヴラブニツァは，住宅地ともに工業地域である。1989年以降，北西部に向かって都市化の進展が顕著になっている。1992年～2001年の人口増加率は18.8%で，その後も増加傾向にある。住宅地だけでなく，工場の増加も目立っている。１人当たりの居住床面積が14.7㎡とソフィアの平均より小さく，また，高学歴率，風呂を有する住宅の割合，PCを有する住宅の割合もそれぞれ10.9%，91.5%，6.6%とソフィアの平均より低い。さらに，失業率は6.6%で，若干ではあるがソフィアの平均より高く

なっている。

４．おわりに

本稿では，ブルガリアの首都ソフィアの体制転換後の発展と地域的特色について若干の考察を試みた。体制転換後のソフィア発展は，つぎの３点にまとめることができよう。１）急激な商業の集積，すなわち，オフィス，小売店，レストランなどの建設が急ピッチで進んできた。とりわけ，外国資本の大型チェーン店の進出やショッピングセンター，ビジネスセンターの建設が目立つようになった。中心部では，CBDの発展が顕著になった。２）住宅地区，工業地区も著しく変化してきた。住宅地区では，商業機能の進出とともに，民間資本の住宅建設が急ピッチで行われるようになり，かつての住宅景観や住宅環境は大きく変わった。また，工業地区では，工場の閉鎖や周辺部への移転が進み，その跡地の一部はショッピングセンター，小売・卸売り施設に変化している。３）都市化の外延的拡大も顕著になった。特に南部の環状線に沿って，さまざまなオフィス，商店，倉庫，ガソリンスタンドなどが建設されている。また，ヴトシャ山麓など居住環境の良好なところには，高級住宅地が形成されている。周辺集落では，郊外住宅地の機能を強めている集落が多い。

また，ソフィアを人口，経済，生活の３指標からみると，中心部－周辺部，あるいは中心部～南西部－北部～南東部，中心部～南西部－北部という対比で地域的特色を捉えることができること，ロマ人が集積しているクラスナ・ポルヤナ地区が異質であることが明らかとなった。同時に，ソフィアの個々の地区をみるとかなり多様であることも浮き彫りになった。ソフィアの発展と地域特性（地域の多様性）とはどのような関係にあるのだろうか。この点を今後の研究課題として，本稿を終わることにしたい。

謝辞

本稿をまとめるに当たり，ソフィア大学地理学教室のProf. Dr. Karastoyanov, S., Prof. Dr. Nikolova, N., Prof. Dr, Stoychev, K., Dr. Poleganova, D.を初めとする諸先生，ソフィア統計局（Regional Statistical Office）及びソフィア市行政区（Municipalitiy of Soifa)のスタッフに親切なご指導をいただいた。作図に関しては，岐阜県図書館世界分布図センターの川村謙二氏にお世話になった。また，本調査研究に際しては，科学研究費補助金基盤研究（B)「EU統合に伴う中央ヨーロッパの都市再生プロセスとエスニック集団」（代表　東京学芸大学　加賀美雅弘）を利用した。これらの諸先生・スタッフ，諸機関に心から感謝の意を表したい。

注）

１）たとえば，つぎの文献を併せてみると，東ヨーロッパの大都市の変化の共通点が明らかになる。Enyedi, G. and Szirmai, V. 1992; Turnock 2003; 加賀美2007; 伊藤2007。

２）ブルガリア統計局（National Statistical Institute）での聞き取り調査による。

３）ブダペストの都市構造と比較すると，中心地区がブダペストのDBDとCivic center, Histric center に，内帯はInner city，Inner residential zoneに，そして，縁辺帯がTransitory residential zone, High prestige green belt, New housing estate, Industrial zonesに対応するものと思われる。Enyedi, G. and Szirmai, V. 1992及び加賀美　2007参照。

４）高学歴率とは，全人口に占める高校卒の人口の割合である。

５）地域発展・公共事業省（Ministry of Regional Development and Public Works)，ソフィア行政区（Municipality of Sofia）等での聞き取り調査による。

文献）

加賀美雅弘2007．EU拡大に伴う東ヨーロッパの都市市街地の変化　ハンガリー・ブダペストの市街地再開発．小林浩二・呉羽正昭編著『EU拡大と新しいヨーロッパ』1-16．原書房．

小林浩二2005．『中央ヨーロッパの再生と展望－東西ヨーロッパの架け橋はいま－』古今書院．

Enyedi, G. and Szirmai, V. 1992. *Budapest A Central European capital*. London: Belhaven Press.

Fassmann 1997. Die *Rückkehr der Regionen*. Wien: Verlag der österreichischen Adademie der Wissenschaften.

Georg Westermann Verlag 1970. *Westermann Lexikon der Geographie*.

Gorzelak 1996. *The regional dimension of transformation in Cetral Europe*. London: Jessica Kingsley Pulishers.

Korec, P. and Buček, J. 1999. Transformation process in Bratislava after 1989. 小林浩二編『中央ヨーロッパにおける市場経済化の進展と地域構造の変化』（平成 8 〜10年度科学研究費補助金国際学術研究・学術調査（A）研究成果報告書）488-509. 岐阜大学教育学部.

Korec, P. 2004. Bratislava, Capital of Slovakia- Chinges in the transformation period. In *Change of population, family and region- Slovaka and Japan*, ed. K. Kobayashi and J. Mládek, 136-156. Gifu: Gifu University.

Ministry of Regional Development and Public Works 2005. *National regional development strategy of the Republic of Bulgaria for the period 2005-2015*.

National Statistical Institute・Regional Statistical Office of Sofia・Municipality of Sofia 2004. *Sofia in Figures 2003*.

Sofia. http://en.wikipedia.org/wiki/Sofia

Sofia Municipality 2004. *Architecture and town planning development 2004*. Masterplan of the city of Sofia and Sofia municipality. Tynthesis Summary Report.

Turnock, D. 2003. *The human geography of East Central Europe*. London and New York: Routledge.

Wecławowicz 1996. Contemporary Poland space and society. London:UCL Press.